



JFA Academy IMABARI

JFAアカデミー今治

2015

JFAエリートプログラム



フィロソフィー

常に（どんなときでも、日本でも海外でも）ポジティブな態度で何事にも臨み、自信に満ち溢れた立ち居振る舞いのできる人間を育成する。

私たちは、現代の日本であまり使用されることのない「エリート」という言葉を使っています。

私たちは、この言葉に対し、日本では強い抵抗感があると感じています。しかし、そこを敢えて使っているのです。

現在の抵抗感は、本来のこの言葉の持つ意味を離れたところで生じていると感じています。本来のエリートとは、決して特権階級を指すのではなく、先頭に立って社会に貢献する義務を負うリーダーを指しているのです。

また、日本の教育は戦後、大衆化、平等化の方向をとりました。これはある時期必要なことであったと思いますが、現在、社会的なリーダーの不在およびその育成の必要性がうたわれ始めており、国を挙げてエリート教育に取り組む国も出てきています。

ボトムアップとプルアップという言葉があります。ボトムアップとは、文字通り底上げです。プルアップとは、エリート教育の成果を還元し、社会全体を引き上げていくという考え方です。

私たち日本サッカー協会では、2005年1月1日に、『JFA2005年宣言』をし、「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」という理念を実現するために、2015年には、登録数500万人、世界でトップ10のチームになる、そして2050年までには日本でのワールドカップの開催と優勝、という明確な目標を設定しました。そしてそれは、単なる日本サッカー協会の目標としてではなく、日本全国の皆さんと双方向で交わされた約束という形で宣言されました。

そのために私たちは、ベースの水準の向上を重要視し、その方向に大いに取り組んできました。その成果はある程度あがってきたと考えています。そして今、新たに掲げた目標に向けて、さらに一步前に進むために、ベースの向上とエリート教育の両者を共存させていく必要性を痛感しています。

最近では、スポーツやその他の分野で、早期からプロ顔負けの厳しい取り組みをしている例を見ることがあります。

その活動の種類によってはそれが適切と認識されている場合もあるかもしれませんが、それに対して眉をひそめる方もいらっしゃるかと思います。その抵抗感を分析する必要があります。

私たちは、サッカーという競技の特徴を把握した上で、子どもの発育発達の特徴を研究し、「長期的視野に立った育成」という観点から、それぞれの年代ごとに重点的に取り組むべきこと、適した方法等について、検討を重ねてきました。サッカーについて、そしてサッカー以外の部分について、子どもの頃にこそ取り組ませたい大切なことがたくさんあるという認識に至りました。

子どもは小さな大人ではありません。子どもにはそれぞれの年代で子どもに合った取り組みがあります。それを踏まえ、それぞれの年代で最適な環境・指導を与えることが重要です。

また、いわゆる「ぶつ切りの強化」、小学校、中学校、高校でそれぞれがばらばらにそれぞれの時点で完成されたチームをつかって勝とうとすることは、ともすれば、選手の長期的な育成の観点からは、弊害になる場合があります。せっかくのポテンシャルを生かされずに終わってしまう選手が実にたくさんいます。本来であれば皆が同じビジョン、コンセプトのもとで子どもがチームを移ろうとも長期的視野に立った育成がなされていけばいいはずですし、私たちは常にそれを目指していますが、それはなかなか簡単なことではありません。そこに一貫指導の意義があります。

私たちは、若年層の育成に長年にわたり積極的に取り組んできて、若年層であればあるほど、可能性を持ったタレントが実にたくさんいることに気づきました。その子どもたちに、是非とも良い環境と機会を与え、持ち合わせた可能性を开花させることができるようにすることが重要であると感じています。

エリートに対する抵抗感のもうひとつには、選ばれなかった者の抱く差別感があると思います。

子どもは時間をかけて、さまざまな刺激を受けて、個人によりさまざまなスピードで成長していきます。若年層でたとえ選ばれなかった子どもがいても、もちろんそれで終わりではありません。それがその子が将来大成しないという判定を下すことでは決してありません。その中からも将来の日本を担う人材が育つと考えています。また、若年層で選ばれた子どもが、将来を保証されたわけでもありません。このプログラムに選ばれたからといって、全員がプロになれるわけではありません。このことは、本人も周囲の大人も、必ず理解しておいていただきたいことです。だからこそ私たちは、サッカー以外の面でも世界に通用する人材となるようなプログラムを組み込んでいこうと考えています。

また、プルアップの考え方で、一部のレベルを上げることによって、周囲のレベル、全体のレベルを引き上げることが可能であると考えています。それによって、ベースを含めたサッカー界全体の幅と厚みが広がり、それが単に直接的な意味だけではなく、世界トップ10を目指す日本代表の活躍につながる大きな力となることを、大いに期待しています。

子どもが育っていく上で、それぞれ重要な若年層のある一時期において、良い環境と良い指導を与える機会をつくりたいと考えています。そのことを是非ともご理解いただきたいと、強く願っています。

世界のなでしこになる



この5つの言葉の真の意味を自分の言葉で言える「自立した個人」を育成します。

なでしこ vision

日本女子サッカーの発展のために、そして「JFAの理念、ビジョン、約束」を実現するために、「世界のなでしこになる。」というビジョンのもと、女子サッカーに関わるすべての人々が共有し、遂行する、3つの目標を定める。

1. サッカーを日本女性のメジャースポーツにする。
2. なでしこジャパンを世界のトップクラスにする。
3. 世界基準の「個」を育成する。



目的

「世界基準の個を育成する」

「世界基準」をキーワードとし、あくまでも個の育成を目的とします。

ロジック形式による教育により、能力の高い者に良い指導、良い環境を与え、長期的視野に立ち、集中的に育成します。

また、サッカーはもちろん、人間的な面の教育も重視し、社会を

リードしていける真の世界基準の人材、常に（どんなときでも、日本でも海外でも）ポジティブな態度で何事にも臨み、自信に満ち溢れた立ち居振る舞いのできる人間の育成を目的とします。

才能を持つだけでは、必ずしも開花するとは限りません。才能を持つ者に良い環境を与え、本人の努力を伴わせることにより、世界に通用する選手を育成します。

トレーニングコンセプト

～世界基準の個の育成～

個性を輝かせるための基本となるテクニックの質を高め、サッカーの原理原則を理解し、習慣化し、仲間との関わりの質を高めていきます。

JFAがこの年代でこそ身につけて欲しいと考えること【動きながらの技術、動きの習慣化、観る、判断する、持久力等】の向上と質の追及を目指します。

JFAアカデミーはチームを強化することが目的ではなく、JFA

アカデミー今治としての公式試合活動は行いません。（チーム登録も行いません。但し、トレーニングの一環として、トレーニングゲームは実施します。）



指導・サポート

(1) サッカーの面に関して

能力の高い選手に、良い環境で集中的に良い指導を与え、個の能力を高めます。寄宿生活の中で、最高のトレーニング環境を与えます。試合も重要な機会であり、公式試合活動に関しては、アカデミーではなく個々にチームに所属し、週末にはそのチームで試合の経験を積みます。

(2) サポート、環境面に関して

日本サッカー協会技術委員会、女子委員会、スポーツ医学委員会等と協同し、メディカル、栄養、フィジカル等のサポート体制にて、

より良い成長を促していきます。中学生年代は心理的に不安定な時期にあたりますが、適切なサポートや刺激を与えることでドロップアウトを防ぐよう、対応を行います。

(3) 教育面に関して

サッカーばかりではなく、人間的な教育や論理的思考、ロジカルコミュニケーションスキル、外国語等の総合的教育を行い、リーダー教育を重視します。また、代表（リーダー）としての自覚を促す教育も行います。将来、日本をリードする人材となる真の意味での「エリート」を育成します。

活動

(1) 生活に関して

* ロジック（寄宿制）+週末帰省

平日は、JFAアカデミー今治専用寮（旧上朝小学校を改修）に寄宿し、サッカーのトレーニングや総合的教育を行います。最適な日課の中で、トレーニングや食事、休養、必要な学習を実施することで、効果的な育成を行います。

週末は自宅に帰省します。毎週末、無理なく帰省・帰寮が出来る範囲からの子どもを対象としています。

■旧上朝小学校（2014年3月閉校）校舎を改修し、JFAアカデミー今治の寮として利用します。

■寮は、共同生活の場として、コミュニケーション、交流、教育、学習、教養等を行う場として捉えています。

■家族（家庭）が特に必要な年代に親元を離れることとなりますが、毎週末帰宅し、家庭生活に戻ることとしています。

■日常生活全体の問題については、学校とも連携



を図りながらサポートを行います。アカデミースタッフ、学校、地域で協力し十分なケアをすると共に、保護者との連絡も密に取り合いながら、選手一人ひとりにアプローチします。

■病気や怪我等が生じた場合は、アカデミーメディカルスタッフが中心となり、地元医療機関と連携した体制で対応します。

■夜間もアカデミースタッフが寮に同宿し、寄宿生活に関して責任を持って対応します。

(2) 学校に関して

今治市立朝倉中学校に通学し、学校生活を送ります。中学校とも連携をとり、中学生に相応しい学校生活・社会生活を重視し、指導にあたります。

(3) 学校以外の教育に関して

* JFAプログラム

真のエリートとして社会をリードしうる人材を育成するため、JFAプログラムとして学校のカリキュラムとは別に、アカデミーとして様々なプログラムを施します。

特に、ロジカルコミュニケーションスキルの習得、英会話、リー



ダー教育を重視します。また、スポーツ選手としてのパフォーマンスを高め発揮するために送るべき生活についても、働きかけを行います。

(4) チーム活動に関して

JFA アカデミー今治では、個の能力を高めるためのトレーニングを徹底して行いますが、JFA アカデミー今治としてチーム登録はせず、チームとしての公式試合活動は行いません(但し、トレー

ニングの一環として、トレーニングゲームを行うことはあります)。各自が個々にチームに所属し、毎週末(帰宅時)にはそのチームでトレーニングや試合等の活動を行います。

(5) 社会生活に関して

平日は、親元を離れて寄宿生活を行い、地元(今治市)の公立校に通うという生活を送るにあたり、サッカーの仲間ばかりでサッカーの生活のみにすることは、この年代の子ども達にあるべき姿ではないと考えます。

学校での様々な活動はもちろん、今治市や今治市教育委員会、愛媛県サッカー協会等と協力しながら、地元や社会との交流を重視していきます。



週末帰省方式

(1) ロジング(寄宿制) + 週末帰省

JFA アカデミー今治では、平日は寮に寄宿しアカデミーでの活動を行い、週末や長期休暇は帰省し地元のチームでの活動を行う『週末帰省型』を採用します。

(2) 所属チーム

選手は、週末や長期休暇に活動する地元のチームに登録・所属することになり、そのチームでのトレーニングや練習試合、公式戦等の活動も行うこととなります。所属チームとアカデミーの連携が大切になるため、定期的に情報共有を図り、協力しながら選手の育成に努めていきます。

(3) 帰省/アクセス

選手は、原則として、毎週金曜日の夕方に帰省、日曜日の夜に帰寮します。毎週末、無理なく帰省・帰寮が出来る範囲を対象とし

ます。(最大で4時間以内、四国地域全域及び中国地域・九州地域の一部を想定しています。)



施設

(1) 寄宿舎(寮)

- 学校の統廃合により、2014年3月に閉校となった「旧上朝小学校」の校舎を改修、アカデミーに必要な機能を整備し、寄宿舎(寮)として利用します。
- 夜間もスタッフが常駐するとともに、機械警備システムも導入し、セキュリティに十分に配慮します。
- 整備概要：選手部屋(4人部屋)、食堂、浴室、会議室、サロン、ランドリー、スタッフルーム、舎監室等。

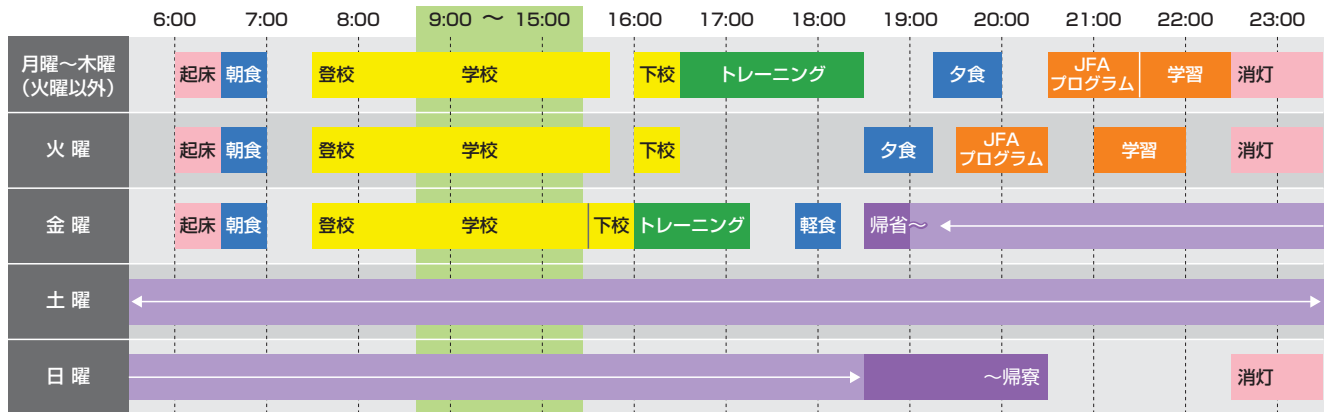


(2) グラウンド

- トレーニングは、桜井海浜ふれあい広場サッカー場(人工芝/JFA ロングパイル公認施設、FC今治のホームグラウンド)を利用します。
- アカデミーのトレーニングは、原則、平日の夕方・夜に行います。
- 寄宿舎からグラウンドまでは、マイクロバスで移動します(約15分)。



スケジュール



○月曜日から金曜日は地元の公立中学校（今治市立朝倉中学校）に通い、下校後、桜井海浜ふれあい広場サッカー場でトレーニングを行います。
 ○金曜日（又は祝日の前日）のトレーニング終了後に帰省（帰宅）し、週末は所属チームでの活動や家庭での生活を送ります。
 ○日曜日の夜（原則、18時30分～20時30分）に、アカデミーに帰寮します。

運営

JFAアカデミー今治の運営を長期的に安定させるため、関係者・関係団体が連携を図りながら、それぞれが責任を果たす必要があります。

- [今治市]は、宿舍施設となる旧上朝小学校の耐震対策や大規模改修等を行い、市として一貫した支援体制を作り、アカデミーを総合的に支援します。
- [NPO法人今治しまなみスポーツクラブ]は、アカデミー運営の主体者となり、寄宿舎の管理や食事提供、選手の送迎等を行いながら、アカデミーを適正かつ円滑に運営していきます。
- [愛媛県サッカー協会]は、アカデミーと連携し、普及・育成・指導者養成等の事業を推進します。
- [日本サッカー協会]は、コーチングスタッフを派遣し、日常

のトレーニングや総合的教育を行いながら、アカデミーを総合的に支援します。



費用

アカデミーの活動には、入校手続金（初年度のみ）と毎月の活動費が掛かります。

[活動費に含まれる費用] (抜粋)

- ・住居費、食費、水道光熱費 ・トレーニング用品
- ・傷害保険費用 ・JFAプログラムに係る費用
- ・アカデミー事業/活動に係る経費 等

[活動費に含まれない費用] (例)

- ・中学校に係る費用（制服、学用品、給食費、教材費等）
- ・帰省（帰宅）に係る費用 ・登録するチームに係る費用 等

※活動費の減免に関して

アカデミー在校生の家庭の経済状況や事情の変化により、アカデミーに支払う活動費に対する減免を行う場合があります。

費目	納入期	初年度	2年目以降
入校手続金		150,000円 (分納/1月&3月)	
活動費(住居費、食費・水道光熱費等)		月額80,000円	月額80,000円
合計(年間)		1,110,000円	960,000円

スタッフ体制 (2015年5月末現在)

スクールマスター	豊島 吉博	(一社)愛媛県サッカー協会 会長
JFAアカデミー女子統括ダイレクター	大野 真	JFAナショナルトレセンコーチ チーフ [女子担当]
チーフコーチ	影山 啓自	JFAナショナルトレセンコーチ [四国担当]
コーチ	田村 奈津枝	
アスレティックトレーナー	松本 小葉	
総務兼選手管理	赤瀬 文	

在校生の所属チーム (2015年5月末現在)

- [岡山県] ▶ハジャスフットボールクラブ (第3種)
- [香川県] ▶MOMOKO F.C
- [徳島県] ▶徳島RAPAZジュニアユースU-15 (第3種)
- [愛媛県] ▶FC今治レディース
- [高知県] ▶FCアスルクラロ高知 (第3種)

NIKEFOOTBALL 



NIKE.COM/FOOTBALLでさらに詳しく

© 2015 NIKE. All Rights Reserved. Nike Japan 0120-645377

NEYMAR JR

DREAM

夢があるから強くなる



公益財団法人 **日本サッカー協会**

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り JFAハウス

お問い合わせ先

公益財団法人 日本サッカー協会 JFAアカデミー事務局
TEL. 03-3830-1890 / FAX. 03-3830-1814
対応時間帯：祝祭日を除く月曜～金曜 10:00～17:00